

| 日付 | 内容 | 経過 |
|--------------|---------------|--|
| H21.6.28 | 相談 | ・長女「次女が、母に優しくないと悩まれる⇒入浴中、冷たいシャワーをかけたリ… |
| H20.7.1～ | 支援調整 | ・ひつじ雲通い(月)～(土)の週5日利用。 |
| H20.8月 | 支援調整 | ・長女の調剤薬局の仕事に合わせ、月2回泊り調整。 |
| H21.9.20 | 本人、体重増加 | ・支援開始時より10kg体重増加している。 →入院中は無歯顎の状態、食事摂取していたので、噛むことができていない。 ・食片をほぼ丸飲みしているのが、原因か？ |
| H21.10.16 | 支援一年経過 | ・ひつじ雲通い:週6日、18:30～帰り。月2日泊り⇒プラン変更せず。 ・服薬変更になり、食後吐き気あるが、てんかんの為、やむをえないという。 ・寝たり起きたりの生活⇒てんかん薬の作用からくるという。 |
| H21.11.16 | 支援調整 | ・長女、妊娠の為、在宅支援が難しい入浴を支援調整。 →ひつじ雲での入浴は、拒否があり、無理に支援していなかった経緯がある。 ・長女、つわりがひどく、日々支援調整する。 |
| H22.1.27 | 本人、不穏 | ・長女、検査入院の為、本人ひつじ雲泊り→本人不穏。 ・涙で訴え(内容聞き取れず)、服を脱いだり、物を投げたり、落ち着かない。 |
| H22.2.1 | 相談 | ・本人、不穏や失禁等みられる。 ・長女「皆、余裕がなく、優しくなれない時もある…」という。 |
| H22.2.11 | 家族のこと | ・本人、ひつじ雲で、家族の姿が見えない(理由?)で不穏、職員にも手をあげる。 ・長女の検査入院結果、異状なし。夫、蓄膿症が重症化し手術入院予定となる。 |
| H22.3.13 | 相談 | ・長女「冗談だったけど、本人の首を絞めてしまった」という。 →妊娠中の不安や、家族に対してのはがゆい思いを話される。 |
| H22.3.22 | | ・家族旅行(マザー牧場)に行き、気分転換→家族がなごみ、成功。 |
| H22.4.7～9 | 夫、入院 | ・夫、蓄膿症手術でG病院入院。 |
| H22.4.6 | 相談 | ・長女「出産もあり、不安で…暫く本人の入所を考えたい」という。 →受入れ先として、F病院を考えているというが…反対する。 |
| H22.5.1 | | ・家族旅行(箱根)に行き、気分転換→家族がなごみ、成功。 |
| H22.5.29 | 相談 | ・長女「ひつじ雲の通いや泊りを利用し、出産を乗り越えたい」という。 →今の家族の雰囲気を変えたくないので、ひつじ雲支援利用だけでと希望。 ・親戚等の助けを考えていたが、断るという→ひつじ雲支援、了解する。 |
| H22.6.19 | 発作 | ・ひつじ雲利用中、てんかん発作。 ・てんかんは完全に薬でコントロールされているが、時々小発作が起きる。 →原因:夫が帰り迎えを、自身の健康のためと、徒歩で来ていた。本人も徒歩30分かけ帰宅していた。体力のない本人には、厳しかったと振り返り。 |
| H22.6.23～7.5 | 長女、出産入院 | ・緊急入院になり、支援調整。 →ひつじ雲支援、夕食後の、帰宅(20:00～家族迎え)を支援。 |
| H22.7.5～ | 支援調整 長女、退院 | ・長女「母を家族でみたいので、以前通りで」という。 →長女入院前の支援に戻すが、18:30～家族迎えをひつじ雲送迎にする。 |
| H22.7.21 | | ・家族が、長女の子、次女の子の面倒で楽しく過ごせているという。 本人、長女の子をおんぶしてあやしているという。 |

【I. Y様 現・86歳 要介護5の支援経過】

平成16年 脳血管性認知症？ うつ病、パーキンソン症候群

| 日付 | 内容 | 経過 |
|------------|-----------|---|
| | 支援前 | <ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス支援利用。デイサービス、ショートステイを使用。 ・息子、孫、夫を続けて亡くし、その後、自身でうつ病かも？と通院開始。市立A病院 精神科 受診始まる。 ・ひつじ雲は、H16.6月～デイサービスから支援。 ・B特養・C特養を交互にショートステイ利用(月の半分はショート) |
| H19.5.1 | 契約・支援開始 | ・ひつじ雲支援:週4日通い、月2～3日泊り。他、車イスレンタル。 |
| H19.9.6 | | <ul style="list-style-type: none"> ・長女「ひつじ雲に満足」という。 ・長女の息子(長男)、精神的にまいり、今回復中という状態。 ・長女の娘(次女)、大学受験。⇒子供のことで本人の介護が充分にできないと娘が悩む 【本人の様子】本人、長女の姿が見えないと落ち着かない。 ・穏やかと思ったら、次の瞬間不穏になる。不穏時は怒りをあらわにし個別対応。 |
| H19.9.8 | 徘徊 | ・本人、徘徊し(自宅玄関から、外へ出る)、左手を傷める。D整形外科受診するが異常なし。 |
| H19.9.20 | 転倒 | ・本人、勝手口で転倒したが、外傷等なし。様子変わりなく食欲あり。 |
| H19.10.7 | 支援対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・長女「夜中の徘徊、感情の起伏が激しくまっている」という。⇒ひつじ雲泊りを増やし対応。 ・長女、母親としての役目もあり、長女の介護負担軽減を考える。 |
| H19.11～12月 | 特養面接 | <ul style="list-style-type: none"> ・長女「以前、申し込んでいた特養に面接できることになった」という。開所予定の特養での面接。 ・本人、面接時、不穏になり、「この状態じゃ無理ですね」と断られる。 |
| H20.1.24 | 相談 | <ul style="list-style-type: none"> ・長女「以前のケアマネに道で会って話したら、グループホームを勧められた」という。 →グループホームの説明をすると、長女「本人には合っていない」という。 |
| H21.1.31～ | 長女の様子 | ・長女より、電話相談が掛ってくるが多くなった。毎回1時間くらい話す。訪問することも多くなる。長女、話しているうちに元気になり、電話を切るというパターン。 |
| H20.2.6 | 相談 | <ul style="list-style-type: none"> ・長女「オレオレ詐欺みたいな電話があった」という。 →還付金の返金という。国立療養支援センターからという。川崎市に問い合わせ該当なし。 |
| H20.2.13 | 通院同席 | <ul style="list-style-type: none"> ・市立D病院 精神科 Dr.D受診、同席し、挨拶する。丁寧に説明してくれ、在宅介護を勧める。 【本人の様子】主治医から「化粧をして、おしゃれをして通院しなさい」と言われているという。 →うつ病の頃かららしいが言われた通りおしゃれに通院し、先生と話す姿は上品な婦人。 |
| H20.3.1 | 相談 | ・長女「話合いをしたい。もう、私、おかしいんです」という。 |
| H20.3.5 | 話合い | <ul style="list-style-type: none"> ・ひつじ雲で話合う。参加者:長女夫婦、本人の義妹、理事長、管理者。 →服薬等の医療面の見直し、主治医へ相談またはセカンドオピニオンを提案。 ・介護というより、精神等の病気の治療を考えていくことを提案。 |
| H20.3.6 | 長女と話合い | <ul style="list-style-type: none"> ・長女、「セカンドオピニオンを積極的に考える」という。 →長女、今の主治医:Dr. Dへの裏切りになるのでは？という気持ちがある。 |
| | 支援、調整 | ・家族の介護負担軽減のため、ひつじ雲泊り対応の調整。 |
| H20.3.10 | 理事長、情報提供 | ・セカンドオピニオンとして、新宿Eクリニック手配。 |
| H20.3.18 | セカンドオピニオン | <ul style="list-style-type: none"> ・新宿Eクリニック、セカンドオピニオンで受診。家族対応。 ・薬の見直し→服用中の薬は、本人の病状に合っていないと言われる。 服薬中の2種類の薬の組合せが良くないとも言われる。 ⇒いきなり服薬中止にせず、また今の主治医との兼ね合いもあるので、 |